

資 料

わが国の結婚と出産の動向¹⁾

—第15回出生動向基本調査（2015年社会保障・人口問題基本調査）の結果より—

石井太・釜野さおり・岩澤美帆・守泉理恵・別府志海・
是川夕・余田翔平・中村真理子・新谷由里子²⁾

出生動向基本調査は、わが国の結婚と夫婦出生力の動向ならびにその背景を定期的に調査・計量し、関連諸施策ならびに人口動向把握等に必要な基礎データを得ることを目的とした調査で、独身者調査と夫婦調査から構成されている。調査対象は、独身者調査では「平成27年国民生活基礎調査」で設定された調査区から無作為に選ばれた900調査区に居住する18歳以上50歳未満の全ての独身者、夫婦調査では独身者調査と同じ900調査区に居住する50歳未満の有配偶女性である。独身者調査では調査票配布数11,442票に対して有効票数は8,754票、有効回収率は76.5%であった。また、夫婦調査では調査票配布数7,511票に対して有効票数は6,598票、有効回収率は87.8%であった。

第 I 部 独身者調査の結果概要

1. 結婚という選択

- ・ いずれは結婚しようとする未婚者の割合は男性85.7%（前回86.3%）、女性89.3%（同89.4%）で、依然として高い水準にある（図表1）。

図表 1 調査別にみた、未婚者の生涯の結婚意思

生涯の結婚意思		第9回調査 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第13回 (2005年)	第14回 (2010年)	第15回 (2015年)
【男 性】	いずれ結婚するつもり	91.8 %	90.0	85.9	87.0	87.0	86.3	85.7
	一生結婚するつもりはない	4.5	4.9	6.3	5.4	7.1	9.4	12.0
	不詳	3.7	5.1	7.8	7.7	5.9	4.3	2.3
	総数（18～34歳） （客 体 数）	100.0 (3,299)	100.0 (4,215)	100.0 (3,982)	100.0 (3,897)	100.0 (3,139)	100.0 (3,667)	100.0 (2,706)
【女 性】	いずれ結婚するつもり	92.9 %	90.2	89.1	88.3	90.0	89.4	89.3
	一生結婚するつもりはない	4.6	5.2	4.9	5.0	5.6	6.8	8.0
	不詳	2.5	4.6	6.0	6.7	4.3	3.8	2.7
	総数（18～34歳） （客 体 数）	100.0 (2,605)	100.0 (3,647)	100.0 (3,612)	100.0 (3,494)	100.0 (3,064)	100.0 (3,406)	100.0 (2,570)

注：対象は18～34歳の未婚者。

1) 本稿は、2016年9月15日に公表された「結果の概要」に基づき、そのポイントを示したものである。「結果の概要」本体資料や詳細数値を示した付表については、ホームページ

(http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou15/doukou15_gaiyo.asp) を参照されたい。

2) 東洋大学経済学部講師

- ・ 結婚の利点として「経済的余裕が持てる」ことを挙げる未婚女性が増える傾向にある（前回15.1 → 20.4%）。
- ・ 独身生活の利点としては「行動や生き方の自由」が安定的に多数を占めている（男性69.7%，女性75.5%）。
- ・ 結婚への障壁としては「結婚資金」が最多となっている（男性43.3%，女性41.9%）。

2. 異性との交際

- ・ 異性の交際相手をもたない未婚者は引き続き増加し，男性69.8%（前回61.4%），女性59.1%（同49.5%）となった（図表2）。

図表2 調査別にみた、未婚者の異性との交際の状況

異性との交際 交際相手との結婚希望/交際の希望	【男性】							【女性】						
	第9回調査 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第13回 (2005年)	第14回 (2010年)	第15回 (2015年)	第9回調査 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第13回 (2005年)	第14回 (2010年)	第15回 (2015年)
婚約者がいる	2.9%	3.2	2.9	2.7	2.9	1.8	1.6	4.6%	3.9	3.8	3.9	4.8	3.1	2.9
恋人として交際している異性がある	19.4	23.1	23.3	22.4	24.3	22.8	19.7	26.2	31.6	31.6	33.1	31.9	30.9	27.3
結婚したいと思っている とくに結婚は考えていない	...	15.1	15.5	13.2	15.9	15.1	13.5	...	20.8	20.0	21.9	21.0	21.9	19.7
友人として交際している異性がある	23.6	19.2	15.3	11.3	14.0	9.4	5.9	25.4	19.5	15.9	12.4	12.9	11.9	7.1
結婚したいと思っている とくに結婚は考えていない	...	2.3	2.2	1.6	1.8	1.5	1.0	...	2.2	2.4	2.1	1.5	2.0	1.9
交際している異性はいる 交際を望んでいる	48.6	47.3	49.8	52.8	52.2	61.4	69.8	39.5	38.9	41.9	40.3	44.7	49.5	59.1
交際を望んでいない とくに異性との交際を望んでいない	32.6	31.9	25.7	26.0
不詳	5.5	7.2	8.7	10.9	6.6	4.6	3.1	4.3	6.3	6.8	10.2	5.7	4.6	3.0
(再掲)結婚したい交際相手あり	...	20.6	20.6	17.5	20.5	18.4	16.0	...	26.8	26.2	27.9	27.3	27.0	24.5
総数(18~34歳) (客体数)	100.0% (3,299)	100.0 (4,215)	100.0 (3,982)	100.0 (3,897)	100.0 (3,139)	100.0 (3,667)	100.0 (2,706)	100.0% (2,605)	100.0 (3,647)	100.0 (3,612)	100.0 (3,494)	100.0 (3,064)	100.0 (3,406)	100.0 (2,570)

注：対象は18～34歳未婚者。「結婚したい交際相手」には婚約者を含む。「交際相手との結婚希望」および「交際の希望」における不詳割合は掲載を省略。ただし、構成にはこれらを含む。

- ・ 性経験のない未婚者の割合が2000年代後半より増加傾向にある（男性 前回36.2 → 42.0%，女性 同38.7 → 44.2%）。
- ・ 30代前半の同棲経験割合は男性10.4%，女性11.9%。

3. 希望の結婚像

- ・ 未婚者の平均希望結婚年齢はほぼ頭打ちで，男性30.4歳（前回30.4歳），女性28.7歳（同28.4歳）。男性で同い年志向の増大が続く（前回35.8 → 41.8%）。
- ・ 未婚女性の予定ライフコースは専業主婦コースの減少が続き（前回9.1 → 7.5%），代わって両立コースと非婚就業コースが増加した（両立 前回24.7 → 28.2%，非婚就業 同17.7 → 21.0%）。
- ・ 結婚相手の条件で考慮・重視するのは，「人柄」が最も多く（男性95.1%，女性98.0%），次いで「家事・育児の能力」（男性92.8%，女性96.0%）。

4. 未婚者の生活と意識

- ・ 親と同居する未婚者の割合は安定して推移（男性72.2%，女性78.2%）。
- ・ 未婚者男女とも「一人の生活を続けても寂しくない」の割合が増加（男性 前回41.5 → 48.3%，女性 同28.7 → 36.2%）。結婚意思がないと7割超（男性75.0%，女性71.7%）。

第Ⅱ部 夫婦調査の結果概要

1. 夫妻の結婚過程

- 夫妻の平均出会い年齢は、夫26.3歳、妻24.8歳で、ともに上昇（前回 夫25.6歳、妻24.3歳）。平均交際期間も4.3年と伸長が続き、晩婚化が進行。
- 戦前7割を占めた見合い結婚は戦後を通じて減少傾向にあり、1990年代半ば以降は一桁台で推移（最新2010～2014年5.5%）。

2. 夫婦の出生力

- 夫婦の完結出生児数（最終的な出生子ども数の平均値）は、前回調査に続き2人を下回った（前回1.96 → 1.94人）。半数を超える夫婦が2人の子どもを生んでいる一方で（54.1%）、子ども1人の夫婦が増加している（前回15.9 → 18.6%）（図表3）。

図表3 調査別にみた、夫婦の出生子ども数分布の推移（結婚持続期間15～19年）

調査（調査年次）	総数（客体数）	0人	1人	2人	3人	4人以上	完結出生児数
第7回調査（1977年）	100.0 %（1,427）	3.0 %	11.0	57.0	23.8	5.1	2.19人
第8回調査（1982年）	100.0（1,429）	3.1	9.1	55.4	27.4	5.0	2.23
第9回調査（1987年）	100.0（1,755）	2.7	9.6	57.8	25.9	3.9	2.19
第10回調査（1992年）	100.0（1,849）	3.1	9.3	56.4	26.5	4.8	2.21
第11回調査（1997年）	100.0（1,334）	3.7	9.8	53.6	27.9	5.0	2.21
第12回調査（2002年）	100.0（1,257）	3.4	8.9	53.2	30.2	4.2	2.23
第13回調査（2005年）	100.0（1,078）	5.6	11.7	56.0	22.4	4.3	2.09
第14回調査（2010年）	100.0（1,385）	6.4	15.9	56.2	19.4	2.2	1.96
第15回調査（2015年）	100.0（1,233）	6.2	18.6	54.1	17.8	3.3	1.94

注：対象は結婚持続期間15～19年の初婚どうしの夫婦（出生子ども数不詳を除く）。

- 出生過程途上の夫婦でも、結婚後5年以上経過した夫婦では出生子ども数に低下傾向が見られる。

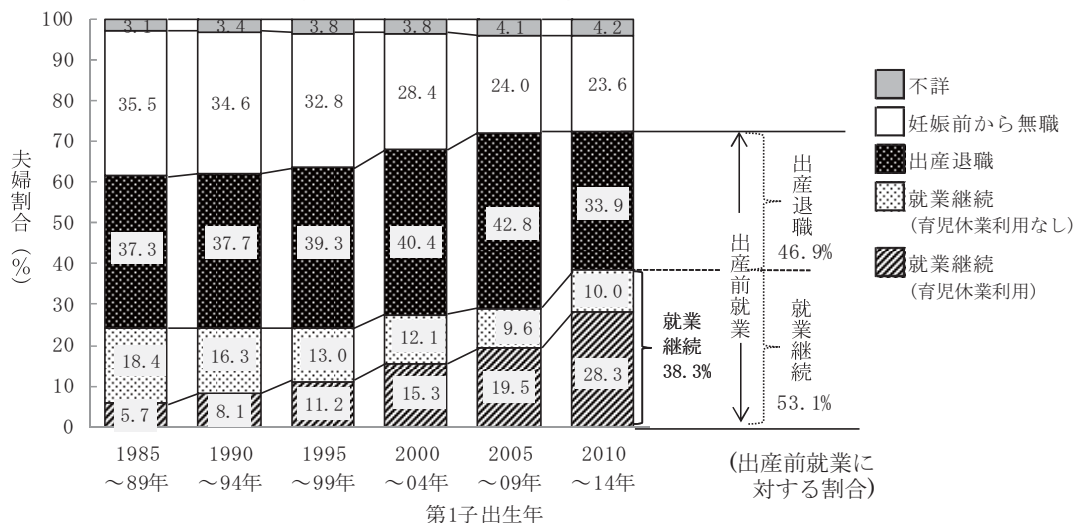
3. 妊娠・出産をめぐる状況

- 夫婦の40.4%が避妊を実施しており、これは第7回（1977年）調査以降で最も低い実施率となる。
- 不妊を心配したことがある夫婦は増加（前回31.1 → 35.0%）。子どものいない夫婦では55.2%で半数を超えている（前回52.2%）。不妊の検査や治療を受けたことがある夫婦は全体で18.2%（同16.4%）、子どものいない夫婦では28.2%（同28.6%）である。
- 流死産を経験したことがある夫婦の割合は全体で15.3%。

4. 子育ての状況

- 子どもの追加予定がある夫婦でも52.9%の妻が就業。追加予定がない夫婦では、末子が0～2歳のとき47.6%、3～5歳になると61.0%の妻が就業している。
- 第1子出産前後の妻の就業継続率はこれまで4割前後で推移してきたが、2010～14年では53.1%へ上昇（図表4）。

図表4 第1子出生年別にみた、第1子出産前後の妻の就業変化



注：対象は第1子が1歳上15歳未満の初婚どうしの夫婦。第12回～第15回調査の夫婦を合わせて集計した(客体数12,719)。就業変化は、妻の妊娠判明時と子ども1歳時の従業上の地位の変化を見たもの。

- 第1子について、何らかの子育て支援制度・施設を利用した夫婦の割合は80.3%。出産後も妻が継続して正規雇用の場合には98.1%。
- 第1子について、約半数の夫婦が夫方、妻方いずれかの母親（子の祖母）から子育ての手助けを受けている（2010年以降の出生で52.9%）。

第Ⅲ部 独身者・夫婦調査共通項目の結果概要

1. 子どもについての考え方

- 未婚者の平均希望子ども数は、男女ともに低下し、男性では初めて2人を切った（男性 前回2.04 → 1.91人、女性 同2.12 → 2.02人）（図表5）。

図表5 調査・年齢別にみた、未婚者の平均希望子ども数

年齢	第8回調査 (1982年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第13回 (2005年)	第14回 (2010年)	第15回 (2015年)
未婚男性	18～19歳	2.32 人	2.30	2.19	2.21	2.18	2.15	2.09
	20～24歳	2.35	2.30	2.25	2.15	2.05	2.11	2.09
	25～29歳	2.37	2.30	2.22	2.14	1.99	2.05	2.05
	30～34歳	2.30	2.26	2.21	2.13	1.98	2.01	1.92
	総数(18～34歳) (客体数)	2.34 (2,573)	2.30 (2,929)	2.23 (3,672)	2.15 (3,203)	2.05 (3,270)	2.07 (2,652)	2.04 (3,084)
未婚女性	18～19歳	2.35 人	2.29	2.20	2.25	2.13	2.23	2.16
	20～24歳	2.34	2.26	2.22	2.16	2.09	2.18	2.20
	25～29歳	2.18	2.18	2.10	2.13	1.98	2.03	2.06
	30～34歳	1.90	1.83	1.90	1.76	1.87	1.84	1.97
	総数(18～34歳) (客体数)	2.29 (1,970)	2.23 (2,371)	2.17 (3,212)	2.13 (3,093)	2.03 (3,001)	2.10 (2,698)	2.12 (2,993)

注：対象は「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者。平均希望子ども数は5人以上を5として算出。希望子ども数不詳を除く。

- 夫婦の平均理想子ども数、平均予定子ども数はいずれも低下し、過去最低となった（理想子ども数 前回2.42 → 2.32人、予定子ども数 同2.07 → 2.01人）（図表6）。

図表6 調査・結婚持続期間別にみた、夫婦の平均理想子ども数と平均予定子ども数

(1) 平均理想子ども数

結婚持続期間	第7回調査 (1977年)	第8回 (1982年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第13回 (2005年)	第14回 (2010年)	第15回 (2015年)
0～4年	2.42人	2.49	2.51	2.40	2.33	2.31	2.30	2.30	2.25
5～9年	2.56	2.63	2.65	2.61	2.47	2.48	2.41	2.38	2.33
10～14年	2.68	2.67	2.73	2.76	2.58	2.60	2.51	2.42	2.30
15～19年	2.67	2.66	2.70	2.71	2.60	2.69	2.56	2.42	2.32
20年以上	2.79	2.63	2.73	2.69	2.65	2.76	2.62	2.58	2.43
総数 (客体数)	2.61人 (8,314)	2.62 (7,803)	2.67 (8,348)	2.64 (8,627)	2.53 (7,069)	2.56 (6,634)	2.48 (5,634)	2.42 (6,490)	2.32 (5,091)

(2) 平均予定子ども数

結婚持続期間	第7回調査 (1977年)	第8回 (1982年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第13回 (2005年)	第14回 (2010年)	第15回 (2015年)
0～4年	2.08人	2.22	2.28	2.14	2.11	1.99	2.05	2.08	2.05
5～9年	2.17	2.21	2.25	2.18	2.10	2.07	2.05	2.09	2.03
10～14年	2.18	2.18	2.20	2.25	2.17	2.10	2.06	2.01	1.92
15～19年	2.13	2.21	2.19	2.18	2.22	2.22	2.11	1.99	1.96
20年以上	2.30	2.21	2.24	2.18	2.19	2.28	2.30	2.23	2.13
総数 (客体数)	2.17人 (8,129)	2.20 (7,784)	2.23 (8,024)	2.18 (8,351)	2.16 (6,472)	2.13 (6,564)	2.11 (5,603)	2.07 (6,462)	2.01 (5,099)

注：対象は初婚どうしの夫婦(妻50歳未満)。予定子ども数は現存子ども数と追加予定子ども数の和として算出。理想子ども数、予定子ども数とも8人以上を8として計算(理想・予定子ども数不詳をのぞく)。総数には結婚持続期間不詳を含む。

- 夫婦の予定子ども数が理想子ども数を下回る理由として最も多いのは、依然として「子育てや教育にお金がかかりすぎる」(56.3%)、次いで「高年齢で生むのはいやだから」(39.8%)。
- 夫婦が女の子に受けさせたい教育の程度は、第10回調査(1992年)では「短大・高専」が最多だったが(38.5%)、今回は「大学以上」が増え(第10回調査34.3 → 59.2%)、「短大・高専」(10.7%)を大幅に上回った。

2. 生活経験と交際・結婚・出生

- 出会いのきっかけは、未婚者・夫婦ともに「職場」,「友人やきょうだいを通じて」,「学校」が7割を占める(未婚男性66.9%,未婚女性66.2%,夫婦70.6%)。
- 子どもとの「ふれあい経験」が多かった未婚者の希望子ども数が多い傾向にあり、とくに女性で差が大きい(「経験多」平均希望子ども数2.14人,「経験少」同1.89人)。
- 結婚後10年未満の夫婦の平均理想・予定子ども数についても「ふれあい経験」の多い妻で高い傾向が見られた(「経験多」理想2.45人・予定2.32人,「経験少」理想2.36人・予定2.21人)。

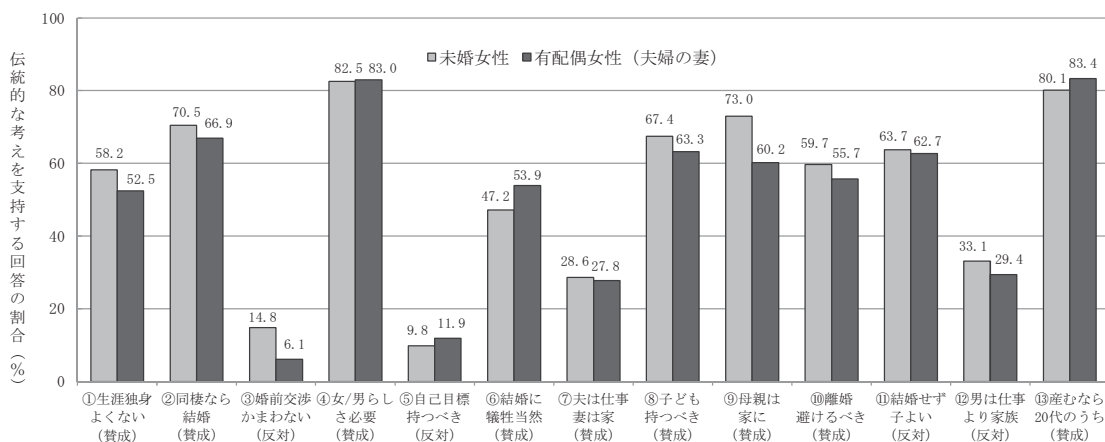
3. 結婚・家族に関する意識

- 妻では「婚前交渉はかまわない」(87.5%),「女らしさ男らしさは必要」(85.3%),

「結婚しても自分の目標を」(85.0%)、「最初の子どもを産むなら20代で」(81.9%)に対して支持が高い。

- ・ 結婚・家族に関して伝統的な考え方の妻(結婚持続期間0～4年の夫婦)は、平均理想・予定子ども数が高い傾向にある。
- ・ 結婚することや子どもを持つことについては、妻よりも未婚女性の方が伝統的な考え方を支持する傾向がある。一方、結婚後のあり方や出産に適した年齢については、妻の方が伝統的な考え方を支持している(図表7)。

図表7 配偶関係別にみた、結婚・家族に関する意識：第15回調査(2015年)
(18～34歳の未婚女性と有配偶女性)



注：対象は18～34歳の未婚女性と有配偶女性(初婚どうしの夫婦の妻)。①②④⑥⑦⑧⑨⑩⑬は賛成の割合(「まったく賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計割合)を用いて、③⑤⑪⑫は反対の割合(「まったく反対」と「どちらかといえば反対」の合計割合)を用いて、伝統的な考え方を支持する割合として示している。客体数は、未婚女性(2,570)、有配偶女性(1,298)。